

目の不自由な方に朗報!よむべえネットパックが読書と生活に貢献

株式会社アメディア（東京都練馬区 代表取締役 望月 優）は、音声読書器“よむべえシリーズ”に対応した、インターネット・ドングルのレンタルを2023年10月に開始しました。

株式会社アメディア

アクセシビリティ

ロービジョン

全盲

生活

福祉機器

視覚障害

障害支援

● 2023年10月18日 16時20分



「自宅にネット環境がないから」各地で出展する展示会でクラウドサービスを体験した視覚障害当事者から聞く言葉です。こうした声に応えて、よむべえネットパックは誕生しました。

スキャナータイプの“よむべえスマイル”と折り畳みカメラで立体にも対応した“快速よむべえ”からなるアメディアの音声読書機よむべえシリーズは、電子書棚として約100冊分の本を保管できることから、目の不自由な方の活字本の読書に大きく貢献してきました。

流通ジャーナリストとして活躍された故緒方知行氏も失明されてからはよむべえで多読されていました。郵便物や薬の説明書、おりこみちらし等も読み上げる生活に幅広く活躍する人気シリーズです。

「よむべえネットパック」は、これらのよむべえシリーズを利用する皆様に、高機能なクラウドサービスとインターネット接続をセットで提供するサービスです。

◇視覚障害者が“1人でもできる”ドングルを使ったネット接続

アメディアからお送りする、通信SIMを組み込んだ「インターネット・ドングル」を、よむべえのUSB接続口にセットして起動すると、インターネット接続が確立します。

画面操作やパスワードの入力は一切なく、視覚障害者も届いたその日からクラウドサービスを利用できます。

◇クラウドサービス

アメディアのクラウドサービスはGoogle Cloud Platform (GCP) を利用しており、Google の AI 技術を元に高精度な機能の提供を実現しています。

・クラウド認識

手書きや商品パッケージも自然に読み上げます

・翻訳

現在、4カ国語の相互翻訳に対応しています。例えば、英語から日本語への翻訳では、最初から日本語で書かれているかのようなネイティブな翻訳結果と読み上げを行います

・通帳読み取り

認識の難しい通帳を一つひとつに内容をしっかりと把握できます

よむべえネットパックについての詳細を以下のURLからご確認いただけます。

<http://www.amedia.co.jp/product/visual/netpack.html>

◇視覚障害者のアクセシビリティ向上に貢献

株式会社アメディアは情報収集に役立つクラウドサービスを身近にするネットパックを提供することで、視覚障害者のより便利で自立した生活を読書器を通じてサポートします。

よむべえスマイル製品ページ

<https://www.amedia.co.jp/product/visual/ys/index.html>

快速よむべえ製品ページ

<http://www.amedia.co.jp/product/visual/yk/index.html>

◇取材について

上記製品又は弊社への取材をお待ちしています。
代表取締役がインタビューにお答えします。



◇株式会社アメディア

1989年の設立依頼、視覚障害者の自立を支援することにテクノロジーで挑戦。
創業者、代表取締役 望月優は
視覚障害当事者の立場から、特に音声で印刷物を読み上げる製品「よむべえシリーズ」の開発に注力。
2016年より視覚障害者の外出インフラの向上を目的に、ナビアプリ開発に着手、
2019年には、現在のナビレク・バリアフリーマップの仕組みを確立させ、視覚障害者のみならず
見える人にとっても使いやすいバリアフリーマップとして、誰もが住みよい街づくりへの貢献を目指す。

株式会社アメディア

<https://www.amedia.co.jp/>

◇音声読書機の歴史

1978年:カーツワイル・ピアノで知られるレイモンド・カーツワイル博士が、英語音声読書器を開発。
1981年にニューヨーク・ヘムステッドの公共図書館で、望月優がこの読書器の使い方トレーニングを受ける。
1983年:上記音声読書器がバージョンアップされ、カーツワイル・パーソナルリーダーとなり、音声我非常に聞き取りやすくなる。
1983年:当時の通産省工業技術院が5億円の開発費を投じ、日本電気とアンリツが日本語音声読書機の開発に着手。
1988年の試作機発表会に望月優が参加。販売するとしたら1500万円ぐらいということだったが、世の中に出回ることはなかった。
1990年代初期:拓殖大学と横浜市立盲学校の共同研究開発による日本語音声読書器「達訓」が搭乗。380万円という価格で市場に投入された。
1993年:オーストラリアのロボトロン社が日本語音声読書機「エスプリ」を開発。サカティンクスが日本の輸入代理店となり、視覚障害者にはアメディアが160万円で発売。
1996年:アメディアがパソコン用音声読書ソフト「ヨメール」を開発。198,000円で発売。
以降、アメディアの開発
2003年:音声読書器「よむべえ」 198,000円
2008年:通帳読み上げキット
2013年:手書き認識を搭載したよむべえスマイル
2017年:カメラで読み取る快速よむべえ
2021年:インターネットに接続するクラウド認識機能搭載
2023年:翻訳機能搭載
なお、この間、OCR 技術が飛躍的な進歩をし、スマートホンでも読み上げができるアプリも出ている。

アメディアでは、視覚障害者が正しくカメラを対象物に向かって構えることが難しいことから、印刷物を置く位置とカメラの位置関係が正しくセットできる据え置き型カメラを利用した製品開発に注力している。